



## 「<sup>はなちようず</sup>花手水」で 人気の“<sup>ば</sup>映え”スポットが誕生

寺社などで手や口を清める「手水舎(ちようずしゃ/てみずしゃ(や))」に、花を浮かべて参拝者の目を楽しませる「<sup>はなちようず</sup>花手水」をご存じですか。

もともと花手水とは、水のないところで草花の露を使い、手を清めることをいいますが、近年話題になっているのは、手水鉢に色鮮やかな花を浮かべたもの。2017年に京都の<sup>ようこくじ</sup>楊谷寺が、手水舎に紫陽花を浮かべたところ、その美しさがSNSなどで評判になりました。現在、手水舎は感染予防のため閉鎖されていたり、使用を控えてもらうことが多いのですが、代わりに花手水をする寺社が増え、「SNS映えスポット」として人気となっています。

今回紹介するのは、宮崎県・<sup>ほんじょう</sup>国富町にある本庄<sup>やはたぐう</sup>八幡宮の花手水。今年で鎮座1190年を迎える歴史のある神社です。ここの手水鉢に、地元の幼馴染3人組・日高啓善さん、高妻小代子さん、井上三男さ

んが季節の花々を浮かべ、地域の方に喜ばれているとして、宮崎市支部(事務局：宮崎太陽銀行)より「小さな親切」実行章を伝達しました。

3人は日頃から、地域の方と協力して、境内の清掃や整備をするなど神社に親しみ、大切にしてきましたが、もっと多くの方に参拝してもらって地元を盛り上げたいと花手水を始めたとのこと。

本庄八幡宮の公式Instagram (@honjo\_yahatagu\_official)には、色とりどりの花手水が紹介され、たくさんの「いいね!」がつかまりました。

今では、ほかの方もお花を届けてくれるようになり、たくさんのお花が参拝客を楽しませています。気軽に外出できない日々が続いていますが、皆様も花手水をしている近くの寺社を訪れて、お花の持つ癒しの力を感じてみてはいかがでしょうか。